



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 689 回 モスバーガーのおばちゃんの話

2016.7.10

前「ザ・リッツ・カールトン・ホテル」日本支社長の高野登氏の、心に届く「おもてなし」という話の中に「モスバーガーのおばちゃん」がある。

有名な話なので、ご存知の方も多いかもかもしれないが、とても素敵な話なのでご披露したい。

モスバーガーってご存知ですか。

日本でただひとつの、日本生まれのハンバーガーチェーンです。

作り置きをせず、すべて注文を受けてから作ります。

スタッフの人もおばちゃん、おじちゃんが多い。

高校生や大学生のバイトと違ってとても自然体なんです。

ある日の夕方、いつものようにテリヤキバーガーを頬張りながら、なんとなくカウンターの方をみていると、若い女性がやってきました。

『モスバーガーください。ソースは多めで。タマネギは抜いてください』

よくある注文です。しかし、それに対する返事がよくある返事ではなかったのです。

おばちゃんアルバイトのその店員さんは、

『あんた、タマネギ嫌いなのか？ 若いうちから好き嫌いはいだめよ。タマネギは栄養の宝庫なのよ。

あんた、まだ独身でしょ。これから結婚して子供を生んで、旦那さんの面倒見ていくのに、栄養つけなきゃだめ。ちょっと火を通しといてあげるから食べてごらん。

だまされたと思って。ほんとにおいしいのよ。いいわね。』

その女性、あつけにとられて、思わず、『はい。お願いします。』

…窓際のカウンターで食べ始めた彼女の目に、涙が浮かんでいるのに気がきました。

やっぱりタマネギが辛かったのでしょうか…

想像するに、彼女、多分東京で一人暮らしをしているのでしょう。

一人だけの侘しいハンバーガー・ディナー。

それが、おばちゃんアルバイトの一言で心温まる時間になった。

長いこと誰からもこんな言葉をかけてもらった事が無かったんじゃないかな。

嬉しかったんだ、きっと。帰り際のカウンターで…

『ご馳走様でした。すごく美味しかった。また来ますから、タマネギお願いします！』

『いいわよ、いつでもいらっしゃい。でもハンバーガーばかり食べてちゃだめよ』

『えっ、お店の方がそんなこと言っているんですかあ(笑)』

『あらっ、そうね。今の、店長には内緒よっ！(笑)』

帰っていく彼女の後姿、来た時よりもずっとずっと元気に見えました。

出典:「いい話の広場」http://www.giveandgive.com/iihanashi_top/genki/vol_0063.html

人との関わりを望まない現代日本人、とんと「出しゃばり」がいなくなった。

こんな出しゃばりなおばさんが、若い女の子の心を癒し、元気を覚醒してくれた、素敵な話である。